

らいふすてーじの内側を探れ!

年に9回発行され、食堂やショップで見かける『らいふすてーじ』。今月号も読んでくださってありがとうございます。ところで『らいふすてーじ』を書いているのはどんな人たちなのか気になりませんか? この記事では『らいふすてーじ』の内側に迫るべく、3人の編集部員の座談会をお届けします。

座談会の参加者

赤黒葉

気さくで温和な3回生。この記事の執筆者。昨年度後期にらいふすてーじ編集部に入った。同輩だけでなく後輩からもいじられるほどの人気者(?)。

<代表的な執筆記事>
2017年1月号
京大人の道COMPASS
『漫画家 若木民喜さん』



わがし

明るい笑顔で場を和ませる2回生。2回生をまとめて引っ張っていくリーダー的存在だが、たまにどこか抜けていることがある。

<代表的な執筆記事>
2017年4月号
特集
『らいふすてーじの舞台裏』



立食師

クールで真面目な3回生。編集部員の議論が本筋からそれないように見守るみんなのストッパー役。しかし日本酒をマグカップで飲む恐ろしい一面も。

<代表的な執筆記事>
2016年12月号
京大探偵団『らいふすてーじの新コーナーに迫る!』



らいふすてーじ編集部に入った理由

赤黒葉 (以下、赤): 今の編集部員の中では珍しく、俺は2回生から入ったんだけど、卒業生へインタビューがしたかったからだったね。実際に2017年の1月号で書けたから目標は達成したかな。

立食師 (以下、立): 俺は先輩の影響というか、この人たちと一緒に活動したら面白そうだなって思ったからだな。

わがし (以下、わ): 自分も雰囲気が入ろうと思いましたね。新歓の時に聞いた活動内容が面白そうだったし、先輩の雰囲気がいいなって思って入りました。

記事を書くときに考えること

立: 興味を持ったものを取り上げて記事にするし、題材から決まるかな。ネタが思い浮かばないときはさっぱりだけどね。

わ: 自分も題材から考えます。自分が知らなかったことを知って、他の人にもちょっと教えたいなって思ったときに記事にしています。

赤: 俺は「私と健康」とか記事の種類の中からどれを書くかを先に決めて、それに当てはまる内容を後から考えるかな。インタビュー記事は相手が決まってから書き始めるけど。

立: 題材の次はレイアウトかな。2016年12月号の「京大探偵団」では見た目をすっきりさせることを念頭に置いて書いたよ。

わ: 書きたいことは妥協せずに書きたいので、そこを譲らないように工夫してレイアウトを作っています。見てほしい点が読んだときに伝わるように考えているんですけど、記事の背景のデザインが一番の悩みどころですね。

初めて書いた記事について

立: 題材選びが難しかったね。ちょうど自分の代の編集部員が記事を書き始めた頃だったから、自分も何か考えないと思って思ったんだけど、書きたいネタがあったわけじゃなくてさ。

赤: それで結局「目から鱗」で『天久鷹央の推理カルテ』を書いたのか(2015年12月号)。

立: そうそう。ちょうど本をよく読んでいた時期で、最近読んだ本を紹介できたらいいなって思ったんだよね。文章を書くのには苦労しなかったけど、イラストが大変だったな……。

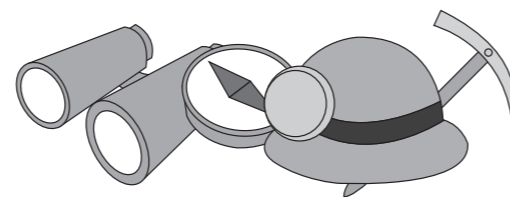
わ: 自分は同期の中では最初に記事を書いた一人でした。夏休みを挟んで時間があるときに書くことを先輩に勧められたので。内容で悩んでいたときにシェルピンスキーの森について聞く機会があったので記事にしてみました(2016年10月号)。

立: 情報量が多くて記事がいっぱいいっぱいになりそうで、もめていたよね。

わ: でも過去の似た記事と内容が重複しないように削ったら逆にスカスカになってしまって焦りましたね(笑)。

赤: 俺は入ってひと月で初記事だったからわからないことも多くて大変だったわ(2016年12月号)。タイトルの装飾が本棚風にできたのは満足だったけど、背景をどうやって付けたらよかったのかは今でもわからないや……。

立: そもそも背景を必ず付けなきゃいけないわけではないしね。初めての記事のときだけじゃなくて今もそうだけど、やっぱり納得のいく記事を作るのは難しいよね。



意外と知らないらいふすてーじのヒミツ

赤: 1年の間で「はみだしすてーじ」と「十人十色」に掲載された合計回数が一番多い人は年間大賞として表彰されるんだよね。

立: 3,000円分のオンバリュー券が当たるんだけど知っている人は少ないよね。L.O.Tで紹介されているんだけど、詳しくは巻頭見開き記事の「らいふすてーじアカデミー賞2016」に載っているよ。

わ: 他にも、実は編集後記に編集長が登場しない月があるとか。

立: 記事を書いている人が多くて、それぞれが編集後記を書きすぎると、編集長の分のスペースがなくなっちゃうからな。

わ: そういえば「うのちゃん」の存在もあまり知られていないですね。

赤: らいふすてーじ編集部のマスコットキャラクターなのに、目に付くところに全然登場してないからね。

立: 2016年10月に食堂の宣伝物に掲載されていたけど本誌に載ったことはほとんどないし。

赤: じゃあこの記事でちゃんと登場させておくれ。

立: あとは、想定していた答えをアナグラムすると別の言葉になっちゃうからクロスワードの答えが複数認められる月があるよね。例えば、答えは「アイマイモコ(曖昧模糊)」だけど「アマイコイモ(甘い小芋)」が認められたとか。

わ: そういうことが起こらないように気を付けて作ってはいるんですけどね……。

赤: あまりにも無理やりな言葉は読者カードで指摘されても認めていない場合もあるよ。「アリトキリギリス(アリとキリギリス)」が答えの時の「キトリアリスギ(切り取りありすぎ)」みたいなの。

立: あれは面白かったけどさすがにダメだわ。

読者にひとこと

赤: 執筆者としてはこの記事が最後まで読んでくれていることに感謝したいわ(笑)。こんなに文字が多い記事だっていうのに。

わ: クロスワードの景品のオンバリュー券は意外と当たるのでぜひ読者カードを書いてほしいですね。

立: 縮めがオンバリュー券の話でいいのか(笑)。

赤: 5月号は文字ばかりだけど、オンバリュー券が欲しいっていう理由でもいいから、来月以降も読んでほしいな。食堂の待ち時間とか授業時間でもいいから。

わ: 授業中に読むことを勧めちゃっていいんですか!?

赤: それで読者カードを書いてオンバリュー券を当ててね!

立: 結局オンバリュー券推しなのかよ(笑)。

いかがでしたか? 皆さんが知らなかった『らいふすてーじ』の一面が見られたのではないのでしょうか。

この記事を読んでらいふすてーじ編集部に興味を持ったら例會に遊びに来てみてください。毎週木曜日の18時30分から吉田食堂で行っているのぜひ来てくださいね。

みんなが来るのを待ってるよ~



らいふすてーじ編集部のマスコットキャラクター「うのちゃん」▶